

平成27年度 第2回 温海地域振興懇談会

次 第

日 時 平成27年9月29日(火)

午後1時30分～

場 所 温海庁舎 6階大会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報 告

- (1) 鶴岡市過疎地域自立促進計画の策定について
- (2) 第1回地域振興懇談会の結果について

4. 協 議 ※資料説明後分散会

- (1) 温海地域の重点課題について
 - ①温海のコミュニティと自治会・公民館のあり方について
 - ②高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進
 - ③農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか
- (2) その他

5. 閉 会

温海地域振興懇談会委員名簿

任期:平成27年6月1日～平成29年3月31日

所属団体名等	役職名等	氏名	備考
温海地域自治会長会	会 長	奥 井 厚	
温海町森林組合	代表理事組合長	大 井 喜 助	
庄内たがわ農業協同組合	営農担当理事	菅 原 久 継	
山形県漁業協同組合	理 事	佐 藤 清 八 郎	
出羽商工会温海支部	代 表 理 事	佐 藤 満 也	
あつみ観光協会	会 長	若 松 邦 彦	
温海地区民生児童委員協議会	副 会 長	小 田 正 宏	
温海体育協会	会 長	佐々木 眞 人	
鶴岡市老人クラブ連合会温海支部	副 支 部 長	三 浦 喜 一 郎	
温海地域婦人会	会 長	佐 藤 美 代 子	
温海地域青年団体連絡協議会	代 表	伊 藤 貢	
鶴岡市消防団温海方面隊	方 面 隊 長	粕 谷 明	
鼠ヶ関地域協議会「蓬莱塾」	会 長	佐 藤 眞 紀 子	
福栄地域協議会「福の里」	副 会 長	五 十 嵐 正 直	
あつみ湯けむり女子会	会 計	本 間 加 知 子	

【市関係者】

所 属	職 名	氏 名	備 考
温海庁舎	支 所 長	鈴 木 金 右 ヱ 門	
温海庁舎	総務企画課	課 長	三 浦 市 樹
温海庁舎	市民福祉課	課 長	石 塚 み さ
温海庁舎	産業課	課 長	佐 藤 光 治
建設部	温海建設事務室	室 長	佐 藤 伸 一
温海庁舎	総務企画課	課長補佐(兼) 総務地域振興主査	五 十 嵐 浩 一
温海庁舎	総務企画課	総務地域振興専門員	本 間 由 縁
企画部	地域振興課	地域振興専門員	齋 藤 芳
企画部	地域振興課	主任	小 野 寺 善 紀

鶴岡市過疎地域自立促進計画の策定について

1. 過疎計画とは

過疎地域自立促進特別措置法（平成 22 年 4 月 1 日施行）に基づき、過疎地域における地域間格差の是正と自立促進を目的として策定された過疎地域自立促進計画のこと。鶴岡市でも平成 22 年 12 月に、平成 22 年度から平成 27 年度までの 6 年間を計画期間として策定された。

市町村合併前は朝日村と温海町が過疎地域に該当していたが、合併後は鶴岡市全域が過疎地域とみなされている。そのため対象地域は全市域となったが、市街地と過疎地域の地域間格差を是正するため、過疎が著しい朝日・温海地域に対して重点的に施策を講じる方針のもと計画が策定された。

平成 22 年度の法改正により、これまでは施設整備等のハード事業のみ計画の対象となっていたが、新たにソフト事業についても対象となった。

過疎計画に記載された事業については、財源措置としてとして過疎対策事業債という、充当率原則 100%、後年度交付税措置 70%という有利な起債を充当することが可能である。

2. 策定の目的

過疎地域自立促進特別措置法は、平成 24 年の法改正により平成 33 年 3 月末日までさらに 5 年間延長された。については平成 28 年度からの過疎地域自立促進市町村計画を策定する必要がある。

3. 平成 28 年度からの過疎計画の策定方針

平成 22 年度から 5 年を経過しているが、少子高齢化や人口減少といった課題はより深刻化している。そのため、上位計画である鶴岡市総合計画や地方版総合戦略、県の過疎計画や朝日・温海地域の地域振興計画との整合性を図りながら、計画を策定するものとする。

新たな取り組みとして、小さな拠点づくりや空き家対策等の内容も計画に盛り込まれる見込みである。

一方、これまで過疎計画の基本方針に掲げられた 4 項目は、目指すべき方向性としてこれまでと同様に重要な内容であるため、引き続き基本方針に基づいた計画を策定するものとする。

4. 今後のスケジュール

- 10月～ 庁内での計画案策定
- 11月 朝日・温海地域選出議員との意見交換
- 12月 県に対する事前の内容確認
- 1月 県に対する事前協議
- 3月 市議会にて計画を審議、議決の後、県に対して計画書の提出

鶴岡市過疎地域対策の概要

《資料1》

◆現状と課題◆

- ①少子高齢化、人口減少による地域活力の低下
- ②地域コミュニティや集落維持の困難性
- ③農林水産業の衰退
- ④耕作放棄地、空家の増加など環境悪化
- ⑤誇りの空洞化

◆時代背景◆

- ①人口減少社会の到来と過疎化の進行
- ②市民ニーズの多様化、自然・本物志向などライフスタイルの変化
- ③地球環境保全に対する意識の変化
- ④森林の持つ多面的な機能に対する評価の高まり
- ⑤情報化社会の進展
- ⑥過疎法改正による過疎対策の充実

◆過疎地域のポテンシャル◆

- ①道路、情報基盤など社会資本の整備
- ②森林を始めとする豊かな自然・文化資源
- ③これまで築かれてきた生活文化
- ④住民相互の絆、地域に対する誇り

鶴岡市過疎地域自立促進計画

～内外の力をあわせ、「安心」「誇り」「希望」に溢れる地域を目指します～

◆過疎計画における4つの基本方針

1. 住民のいのちと暮らしを守る生活支援

【一歩踏み込んだ生活維持・高齢者対策】

- ・地域交通確保・高齢者の生活交通支援
- ・除排雪体制・高齢者への除排雪支援
- ・自主防災活動・孤立集落支援
- ・高齢者等の買い物支援
- ・高齢者見守り、支え合いの仕組み
- ・健康づくり、介護予防の推進
- ・地域医療の確保

2. 農林水産業の活性化と六次産業化

【地域資源を生かした総合的な産業振興】

- ・農業の担い手の育成、確保
- ・地域特産物の生産・加工・販売
- ・鳥獣被害対策の重点的实施
- ・林業、水産業の推進

3. 森林文化都市と地域を元気にする観光・交流の推進

【森林文化都市の推進による地域活性化】

- ・森林文化都市の推進による活性化
- ・観光、交流資源の活用

4. 地域と集落の再生・活性化

【将来への希望と誇りを取り戻すための仕組み、革新的な取組み】

- ・地域課題に住民自らが取り組む仕組み（集落ビジョンと集落対策事業）
- ・地域を支えるネットワーク形成と定住促進
- ・小規模、高齢化集落に対する支援

◆分野毎の主なハード施策

1.産業の振興 [作業道整備事業、漁港整備事業]

2.交通通信体系の整備、情報化・地域間交流の促進

[市道・農道・林道整備、地域情報通信基盤整備、除雪機械]

3.生活環境の整備 [遠隔監視システム整備、高度浄水施設整備、

公共下水道、合併処理浄化槽、消防施設整備、消防施設新営改良]

4.高齢者等の保健・福祉の向上増進

[あつみ保育園整備、通園に対する支援]

5.医療の確保 [診療所医療器具等整備]

6.教育の振興

[温海小学校耐震対策、温海総合運動場改修]

平成27年度第1回温海地域振興懇談会の結果

日 時 平成27年6月26日（金） 午後1時28分～午後3時37分

会 場 温海庁舎大会議室

出席状況 委員：15名中12名出席 市：支所長以下9名出席

辞令交付、委員の紹介、正副会長の選任

協議概要

1 第36回豊かな海づくり大会について

委：放流する魚、リハーサル、市の魚の制定

市：ヒラメ・トラフグ・クロダイの3種で、リハーサルでは天皇陛下の代わりに知事が放流を行う。市の魚は10種の候補から人気投票で決定。

2 日沿道建設の進捗状況、IC周辺開発について

委：全線開通の見込みは

市：今年度から設計協議、用地買収に着手見込みで、完成時期は未定だが、いかに短縮するかが市の役割と考える。

3 特産品開発、販売促進について

委：以前バラや赤かぶを使った特産品開発が行われていたが、その実績、効果は。

市：調査研究段階では市が関わることもあるが、商品化は民間が主となるものであって、効果については明確にされていない。研究調査で終わらないように。

委：特産品や加工品を東京のアンテナショップなどに出荷する、予定される日沿道のPAにも単なる加工品でなく、料理として提供し、温海の名を広めてほしい。

委：特産品開発は民間が主となり、それを行政が支援するシステムが望ましい。

4 福栄地区の地域おこし、地域医療について

委：協力隊3名と推進員が配置され、地域住民とともに頑張っている。念願であった地域医療の拠点として木野俣に医師が配置された。福栄もまだまだ見込みがあるので応援していただきたい。

委：福栄地区の取り組みは高齢者も参加できる活動として注目している。市でもバックアップして、是非成功させて温海全域に波及するようしてもらいたい。

市：福栄地区をモデルとして温海地域全体に活力がいきわたるよう進めていきたい。

5 あつみ温泉ばら園、駐車場並びに身障者用トイレについて

委：高齢者も楽しめるバラ園の整備、駐車場、身障者用トイレの整備を望む。

市：歩いて楽しいまちづくりを重点に整備を行ってきた。バラ園整備、トイレの整備については課題としてとらえており、地元と協力して検討していきたい。

委：バラの温泉街を目指して県道沿いにもバラを植えており、足の不自由な方でも道路沿いでバラが楽しめるようにしたい。

委：車いすでもスムーズに通行できる道路整備をお願いしたい。

6 ふれあいセンターの指定管理化とイベント事務局のあり方について

委：さくらマラソン、トライアスロンは市を代表するイベントであり、指定管理後も市の振興事業として位置づけ運営していただきたい。

市：市が全く手を引くということではなく、実行委員会とも協議のうえ、お互いの役割を整理したうえでスムーズな大会運営を目指していきたい。

7 足湯の整備について

委：足湯に屋根があれば、雨天や日差しの強い日でも利用できるのではないか。

市：人優先のみちづくりをポリシーとして、何とか道路上に足湯を許可してもらった経過もあり、屋根の設置はさらに厳しい規制が予想される。

まちづくりアドバイザーのポリシーとして、青空の見える足湯で 100 点満点を目指しなさいというアドバイスで、あえてかけなかったということもある。

温海地域の重点課題と取組み状況

担当課名

総務企画課

1. 課題項目	温海のコミュニティと自治会・公民館のあり方について
2. 現状・実態	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民の減少及び高齢化に伴い、役員の担い手確保が難しくなっており、また、会費収入等の自主財源が減少し自治会等の財政運営は厳しくなっている。 ◆住民自治組織といわれる自治会は、現在 27 組織があり、世帯数は 7 世帯から 420 世帯の規模までばらつきも大きく、世帯数が 30 世帯に満たない小規模の自治会では運営面等において課題を抱えている。 ◆高齢者や要支援者の増加、若者の減少、平日日中の人口減少等により、地域の防犯・防災体制の弱体化が懸念されている。 ◆温海地域は地形的に集落が点在しており、土砂災害により孤立する恐れがあり、さらには海岸地域では津波浸水域が想定されている。 ◆地域内に働く場が少ないことや地場産業の低迷、価値観の多様化等により、若者の転出傾向に歯止めがかからず、少子高齢化の大きな要因になっている。 ◆子どもたちの環境では、学校適正配置基本計画等により地域内に 5 校の内 4 校が統合され、平成 28 年 4 月には 2 校になる。これまで学校と地域が連携してきた各種事業については見直しが求められており、統合後の子どもたちと地域の関わり方が課題とされている。
3. これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> ◇行政事務の円滑化と住民福祉の向上、集落振興を目的に自治会総合交付金を交付。 ◇自治公民館事業（コミュニティ活動）の推進と施設の維持整備に対する支援として公民館類似施設整備等補助金を交付。 ◇自治会等が新たに行う地域課題解決に向けた取り組みや人材育成に向けた活動に対し自治組織ステップアップ補助金などによる支援。 ◇職員の集落担当制による集落課題の解決に向けた懇談会の取り組み ◇過疎地域集落対策事業による集落ビジョンの策定、活性化事業の取り組み ◇平成 26 年度に生涯学習事業等を主として活動してきた「地区公民館（4 地区）」を発展的に解消し、福祉や防災等地域課題にも取り組む「地区自治会（4 地区、広域的な住民自治組織）」を設立。 ◇自主防災組織の機能充実に取り組み、ハザードマップ（津波・土砂災害）の作成、活用や津波避難路整備に対する支援を行った。 ◇鶴岡まちづくり塾の設置等による人材の育成と若者の交流・連携の促進 ◇少子化の一因となっている未婚化、晩婚化の対策として、企業や団体、地域との連携による婚活事業に対する支援
4. 今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○地域コミュニティ推進計画による持続可能なコミュニティづくりの推進 ○将来を見据えた自治会のあり方の検討 ○広域的なコミュニティ組織としての地区自治会の充実 ○自主防災組織への支援 ○学校と地域との連携、地域活動の推進

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進

1 実態（温海地域の特徴：前回資料）

2 課題

65歳以上の高齢者はすでに4割を超え、高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯が今後ますます進むと予想されている。今後、若者が定着できる産業の創出等の地域振興と合わせ、子どもから高齢者が住み慣れた地域で安心・安全そして生き生きと暮らし続けることができる地域づくりが大きな課題となる。

歩ける範囲の身近な地域内で次のような取組み・仕組みづくりが必要となっている。

《これからの高齢者を中心に考えた地域づくり》

(1) 健康づくりの取組みがあること

介護を必要としない健康づくり（健康寿命の延伸）、介護予防事業等地域活動参加の推進、食生活改善の推進

(2) 日常生活（食事等）がきちんとできる地域であること

医療（治療、通院等）、通学、買い物等必要な時の交通手段の確保ができる仕組みづくり

冬期間の雪下ろし・除雪、暖房等の確保

(3) 高齢者・一人暮らしの方が孤立しない地域であること

交流があること。

家庭・地域の中で役割があること（知識経験をいかせる場の創出。誰もが役割を持ち地域の一員として活躍する）

(4) 一人ひとりが楽しみ・生きがいがあること

生きがいづくり趣味があること。

ある程度の収入（こづかい）があること

(5) 若者が住みやすく子育てしやすい環境であること

温海地域の重点課題と取り組み状況		担当課名	産業課
1. 課題項目	農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか。		
2. 現状・実態	人口減少が著しく、全ての分野において後継者問題に直面している。特に、農業分野の米価下落や旅行形態の変化、地域間競争の激化など取り巻く環境変化に対応しきれず、活力を失いつつある。		
3. これまでの取り組み	<p>1地域産業の振興 「温海かぶ」「しな織」「特用林産物」の生産・販売と特色を生かした取組を実施してきた。</p> <p>2あつみ温泉の振興 温海川沿いの市道を人中心のみちづくり・まちづくりをテーマに整備するとともに、鉢植え、ベンチ・テーブル、イーゼルなどの設置によるおもてなしの向上、足湯カフェットモッシュェの開設などを実施してきた。</p> <p>3 鼠ヶ関地区の振興 「念珠関」「念珠の松庭園」「弁天島」などの史跡名勝や「神輿流し」「大漁旗フェスティバル」「トリアスロン大会」「お魚夕市」「漁船クルージング」などのイベントによる観光誘客に地元団体と一緒に取り組んできた。</p>		
4. 今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自然体験旅行推進による交流人口の拡大（地域への経済波及効果） <ul style="list-style-type: none"> → 修学旅行の誘致 → 体験に活用できる資源の磨き上げとプログラムづくり → NPO 法人自然体験温海コーディネットの自立支援 ▶ 伝統的工芸品のしな織の支援 <ul style="list-style-type: none"> → しなの花プロジェクトの推進 → 糸、布の生産体制の見直し ▶ 日沿道全線開通に向けた地域活性化 <ul style="list-style-type: none"> → 鼠ヶ関 IC 周辺への“新道の駅”整備と農林水産業の振興 → 既存道の駅「あつみ」しゃりんの見直し ▶ 焼畑あつみかぶのブランド化の推進 <ul style="list-style-type: none"> → 高品質のかぶの安定生産 ⇒ 皆伐施業地の焼畑あつみかぶ生産 ▶ 林業の振興 <ul style="list-style-type: none"> → 集約化施業の推進 → (仮称)林道大岩川念珠関線の新規事業化 ▶ 水産業の振興 <ul style="list-style-type: none"> → 平成28年の全国豊かな海づくり大会を契機とする水産業振興 ▶ 地域おこし活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> → 「蓬莱塾」、「福の里」の主体的活動の支援 → 福栄地域の「地域おこし協力隊」の活動支援 		